No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 6月11日

日本産業規格表示認証工場
深 江 産 業 株 式 会 社
江田島市大柿町深江2153番地の1
TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328
配合計画者名　中野　貴之

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日、10月1日～12月10日　左記以外の期間については備考欄に記述。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	21	8	40	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －	
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³	
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³	
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³	
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm	
	空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	加工砂	広島県呉市蒲刈町田戸字揚畑産	A	化学法	5 以下	2.85	2.53	2.57	－
	②	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2005	広島県呉市蒲刈町向産	A	化学法	20～5	60.7	2.71	2.72	1.0±1.0
	②	砕石4020	広島県呉市蒲刈町向産	A	化学法	40～20	62.2	2.70	2.71	1.0±1.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq %	0.5
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	①0.002%	水の種類	回収水(上澄み水)	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
260	－	－	153	799	－	－	661	439	－	－	2.60	－	－

水セメント比	58.8 %	水結合材比	－ %	細骨材率	43.4 %

備考　骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ修正する。

骨材混合比(容積混合)　粗骨材①:②　60.0:40.0

夏期修正標準配合期間(6月11日～9月30日)は混和剤を20%増とする。
冬期修正標準配合期間(12月11日～3月10日)は混和剤を20%減とする。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	21	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB —
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低 — ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	— kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	— cm
	空気量	4.5 %		

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{0.85 \cdot S_L}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 25.5 \text{ N/mm}^2 \qquad m_2 = \frac{S_L}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 26.3 \text{ N/mm}^2$$

よって　m = 26.3 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m = -14.7 + 24.1 × C/W

W/C = 24.1 ÷ (26.3 + 14.7) × 100 = 58.8 % ≦【60%(上限値)】

∴W/C = 58.8 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 153 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C = W ÷ (W/C) × 100 = 153 ÷ 58.8 × 100 = 260 kg/m³

Cv = C ÷ 密度 = 260 ÷ 3.04 = 86 L/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.651 m³/m³　実積率 = 62.2 %

Gv = 0.651 × 1000 × 62.2 ÷ 100 = 405 L/m³

G1v = Gv × 60.0 % = 243 L/m³　G1 = G1v×表乾密度 = 243 × 2.72 = 661 kg/m³

G2v = Gv − G1v = 162 L/m³　G2 = G2v×表乾密度 = 162 × 2.71 = 439 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 689 = 311 L/m³

S = Sv × 表乾密度 = 311 × 2.57 = 799 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 43.4 %

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 × 密度 = 260 × 1.0000 % × 1.00 = 2.60 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
260	—	—	153	799	—	—	661	439	—	—	2.60	—	—

水セメント比	58.8 %	細骨材率	43.4 %	骨材混合比(容積混合)	粗骨材①:②	60.0:40.0

備考